

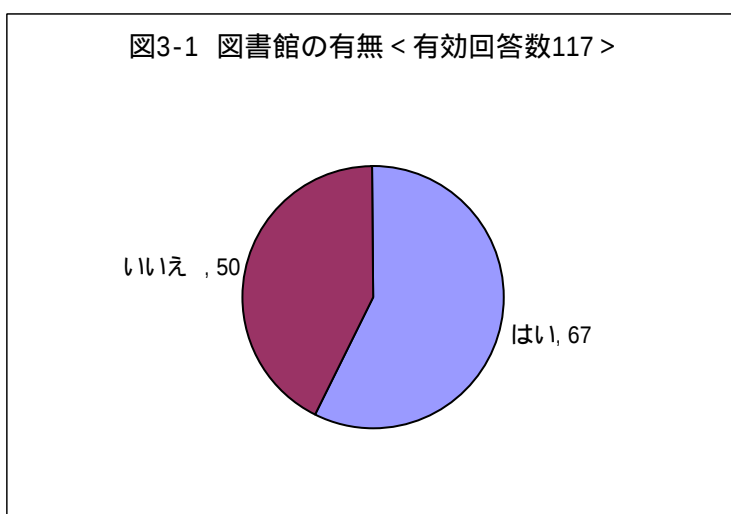
第3章 図書館とまちづくり

田村 美奈海

3.1 道内の図書館設置状況

平成 18 (2006) 年 3 月 31 日に女満別町と東藻琴村との最後の合併を終え、現在北海道には 180 の市町村がある。本章では、アンケートが返ってきた 117 市町村の結果から、道内の図書館設置状況を整理する。

図 3-1 によれば、図書館法に基づいて設置された図書館は 67 市町村あり、57.3% の自治体が図書館を設置している。これは、全国図書館設置自治体数の平均である 62.9% を下回る結果となった。しかし、市町村別にみると、市の設置率は 100% (全国平均 98.2%)、町村の設置率は 48.5% (全国平均 46.6%) と、全国平均を上回っている。また、日本図書館協会



発行の『日本の図書館 統計と名簿 2005』では、町村の設置率は 42.2% となっており、回答した自治体に限ると、比較的図書館を設置しているところが多いといえる。「図書館がある」と答えた 67 自治体のうち、64 が図書館設置数を 1 館、2 館が 2、札幌市が 10 館と回答している。道内の図書館設置状況は 6 割近くの自治体が設置し、そのほとんどが 1 市町村に 1 館であることがわかる。

表 3-1 分館・分室・ブックモバイルの設置状況

	回答 自治体数	図書館の有無		分館 設置自治体 数	分室 設置自治体 数	ブックモー ビル 設置自治体 数
		ある	ない			
北海道内 (180)	117	67	50	10	12	34
	65%	57.3%	42.7%	14.9%	17.9%	50.7%
市 (35)	20	20	0	9	10	12
	55.6%	100%	0%	45%	50%	60%
町村 (145)	97	47	50	1	2	22
	67.4%	48.5%	51.5%	2.1%	4.3%	46.8%

表 3-1 は、道内の分館、分室、ブックモービルの設置状況である。図書館を設置する 67 の自治体のうち、分館を設置しているのは 10、分室を設置しているのは 12、ブックモービルを設置しているのは 34 ある。このことから、図書館を設置する自治体のおよそ半数がブックモービルを設置していることがわかった。1 自治体に 1 館では地域住民に十分な図書館サービスをすることができず、ブックモービルで補っていると思われる。

分館設置数は、図書館をもつ 67 自治体のうち 10 である。そのうち、9 つが市で、町で持っているところは一つであった。そのうち 1 館および 2 館と回答した自治体がそれぞれ 4、3 館および 4 館の自治体がそれぞれ 1 であった。

一方、分室は、分館に比べて幅があり、11 自治体からの回答は、1 ケ所および 3 ケ所持つ自治体がそれぞれ 3、6 ケ所が 2、9 ケ所・13 ケ所・33 ケ所がそれぞれ 1 となっている。

ブックモービルは、33 自治体から回答があり、設置されている自治体の 9 割以上、31 が 1 台と答えており、2 台が 1、不明が 2 であった。また、ブックモービルの拠点数をみると、20～40 ケ所が全体

の 41.1%と、1 台で多くの拠点を抱えていることがわかる（図 3-2）。

また、より道内の様子をわかりやすく把握するため、大きく 4 つのエリア（道南方面（胆振、渡島、後志、檜山管内）道央方面（石狩、空知、十勝、日高管内）道東方面（網走、釧路、根室管内）道北方面（上川、宗谷、留萌管内））に整理したのが表 3-2 である。

エリア別に図書館設置率をみると、道南方面（40.7%）道央方面（66.7%）道東方面（80%）道北方面（35.7%）と、偏りがあることがわかる。全体的に、道南・道北方面は図書館の設置率が低く、道央・道東方面に集中している。特に、道南・道北方面の町村の設置率が低い。分館設置率は全体的に低く、図書館設置率の高い道央方面でも 25%にとどまっている。

分室設置率は、道北方面を除いて分館よりも高い設置率がでている。新たに分館を建てているところは少なく、公民館など他の施設に組み込まれているケースが多いことが予想される。

ブックモービルは、道央、道北方面を除いて半数以上が設置されていることがわかる。道央方面は、交通網も充実している都市が集中していることから、ブックモービルの必要性が低いことが伺える。道北地域は、全体的に低い数値がでていることから、図書サービスの拠点のさらなる充実が求められる。

図3-2 ブックモービル拠点数<有効回答34>

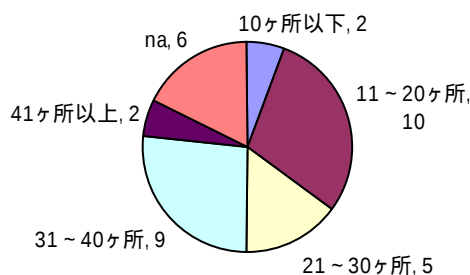


表 3-2 道内の図書館・分館・分室・ブックモバイル地域別設置数

		回答 自治体 数	図書館の有無		分館 設置数	分室 設置数	ブックモ バイル 設置数
			ある	なし			
道南方面	全市町村(49)	27	11	16	1	4	7
		55.1%	40.7%	59.3%	9.1%	36.4%	63.6%
	市(7)	4	4	0	1	3	3
		57.1%	100%	0%	25%	75%	75%
	町村(42)	23	7	16	0	1	4
		54.8%	30.4%	69.6%	0%	14.3%	57.1%
	各管内	胆振管内(11)	5	3	2	0	2
			45.5%	60%	40.0%	0%	66.7%
		渡島管内(11)	6	3	3	0	1
			54.5%	50%	50%	0%	33.3%
		後志管内(20)	12	2	10	1	0
			60%	16.7%	83.3%	50%	0%
		檜山管内(7)	4	3	1	0	1
			57.1%	75%	25%	0%	33.3%
道央方面	全市町村(59)	42	28	14	7	5	11
		71.2%	66.7%	33.3%	25%	17.9%	39.3%
	市(17)	9	9	0	5	5	5
		52.9%	100%	0%	55.6%	55.6%	55.6%
	町村(42)	33	19	14	2	0	6
		78.6%	57.6%	42.4%	10.5%	0%	31.6%
	各管内	石狩管内(8)	7	5	2	4	2
			87.5%	71.4%	28.6%	80%	40%
		空知管内(25)	16	10	6	1	2
			64%	62.5%	37.5%	10%	20%
		十勝管内(19)	15	11	4	2	1
			78.9%	73.3%	26.7%	18.2%	9.1%
		日高管内(7)	4	3	1	0	0
			57.1%	75%	25%	0%	0%
道東方面	全市町村(32)	20	16	4	1	3	12
		62.5%	80%	20%	6.3%	18.8%	75%
	市(5)	3	3	0	1	2	2
		60%	100%	0%	33.3%	66.7%	66.7%
	町村(27)	17	12	5	0	1	10
		63%	70.6%	29.4%	0%	8.3%	83.3%
	各管内	網走管内(19)	11	10	1	0	2
			57.9%	90.9%	9.1%	0%	20%
		釧路管内(8)	6	3	3	1	1
			75%	50%	50%	33.3%	33.3%
		根室管内(5)	3	3	0	0	0
			60%	100%	0%	0%	0%
道北方面	全市町村(40)	28	10	18	2	1	4
		70%	35.7%	64.3%	20%	10%	40%
	市(6)	4	4	0	2	1	2
		66.7%	100%	0%	50%	25%	50%
	町村(34)	24	6	18	0	0	2
		70.6%	25%	75%	0%	0%	33.3%
	各管内	上川管内(22)	17	8	9	2	1
			77.3%	47.1%	52.9%	25%	12.5%
		留萌管内(9)	5	0	5	0	0
			55.6%	0%	100%	0%	0%
		宗谷管内(9)	6	2	4	0	0
			66.7%	33.3%	66.7%	0%	0%

また、市町村合併の影響を調べるため「最近５年間で、新しく分室やブックモービルが回る拠点は増えましたか」という質問をした。図 3-3 のとおり、回答した 67 自治体のうち「はい」が 15、「いいえ」が 52 で、およそ 7 割が増えていないと答えている。またこちら側のミスで増減を問う質問にできなかったため、この「いいえ」の中には、「変わらない」と「減った」が含まれている。「いいえ」の内訳はわからないが、もし「いいえ」が「減った」の意味であると仮定すれば、市町村合併にともない図書館業務が集約されている可能性もある。また、「はい」と答えた 15 自治体のうち、市町村合併による増加は 3 であり、他の 12 は合併との関わりがないと答えた。ここから、市町村合併の図書館行政に対する影響は小さく、むしろ住民のニーズに応じて、図書館を増やしたと推測できる。

図3-3 拠点数の増加<有効回答数67>

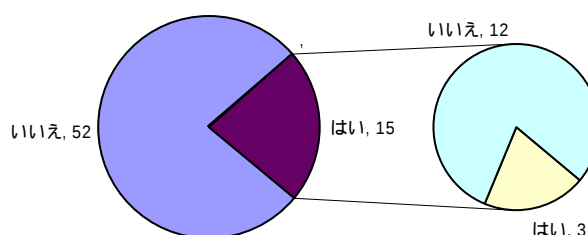
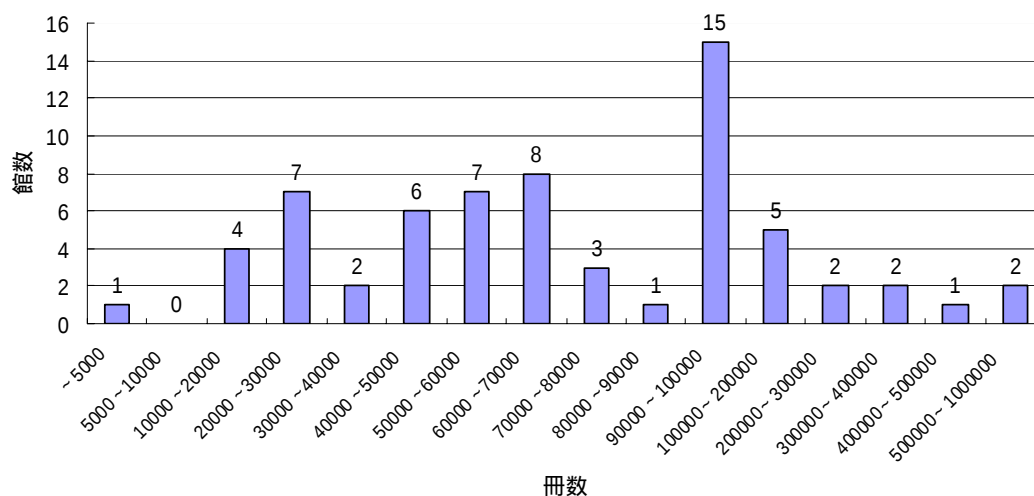


図 3-4 は、道内の図書館の蔵書冊数を図書館の規模とみなして整理したものである。90000～100000 冊を所有する図書館を持つ自治体が 15 市町村と一番多い。10 万冊以上は 12 であり、8 割以上の図書館は 10 万冊未満である。

図3-4 図書館の規模 <有効回答数66>



3.2 道内における図書館づくり運動

道内の図書館づくり運動の実態を調査するため、図書館に関わる諸団体の構成を調べた結果が図 3-4 である。読み聞かせのサークルが半数を占め、図書館づくり運動を行っている団体は 5 自治体のみであった。しかし、図書館づくり運動は、直接的に「図書館づくり」をうたう団体の活動のみを指すのではなく、図書館に関わる市民団体が相互に関わり合いながら図書館への必要性を再認識し、図書館向上に向けて共に活動していくことも含まれるように思われる。よって、ここでは、図書館への市民参加（市民団体）があれば、図書館づくり運動へと発展する芽があると判断したい。このような考えに立てば、「特になし」と答えた 7 自治体の他は、図書館に関わる市民団体が組織されている。このことから、現在は図書館づくり運動が展開されている地域は少ないが、まだ発展途上にあり、今後さらなる発展が望まれる状況と考えられる。

図 3-5 は図書館に対する住民要求の内容である。質問項目に、「住民が組織して」という文言を加えなかったため、この要求が個人的なものか、グループが組織されて要求されたのかは判断することはできない。しかし、全体の 4 割以上が本の増加を求めていることから、市民の求める資料が十分に用意できていない、または用意できない状況がうかがえる。また、「特

になし」を選択した自治体が 16 あるが、これは、十分なサービスを行い、市民が満足しているともとれる。が、もしかすると、図書館に対する関心が低いということを示唆しているのかもしれない。また、「司書の質をあげてほしい」という選択肢が一番少なかったことから、日頃から利用者と司書との関わりが薄いのではないかと考えられる。市民と、市民が求める情報をつなげることが司書の役割である。レファレンスサービスなど、様々な図書サービスを通して、更なる市民の信頼を勝ち得ていかなければならない。

図3-4 図書館に関わる団体<複数回答可>

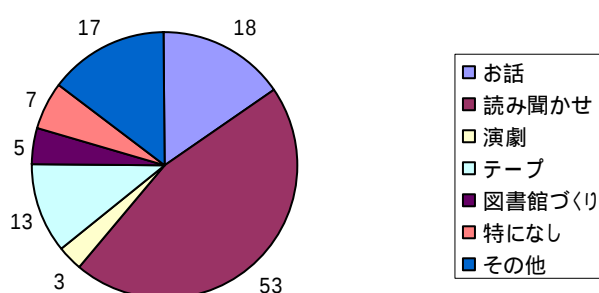
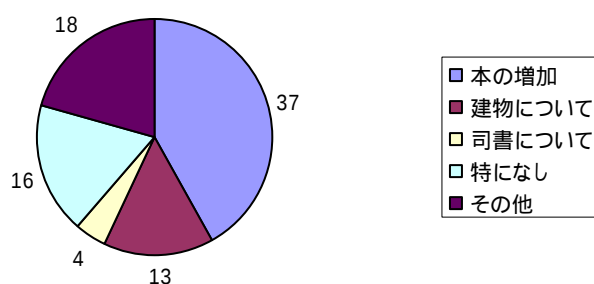


図3-5 図書館に対する住民要求の内容<複数回答可>



3.3 地域情報発信の場としての図書館

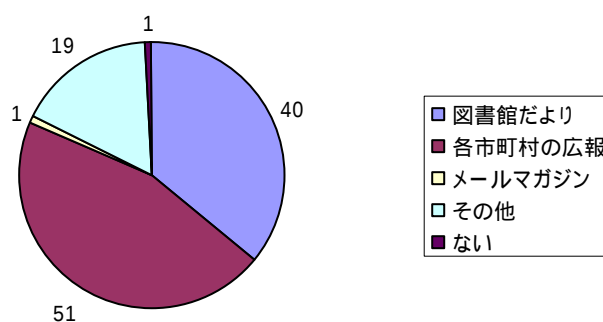
図書館は、資料収集・提供だけでなく、地域情報発信の場としての役割も持っている。そこで、地域固有の情報を積極的に収集しているかをみるために「特色のある資料はありますか」という項目を設けた。これには 20 自治体、全体のおよそ 17%の自治体が「ある」と答えている。記述の欄を設けたので、そこに書かれた回答の一部を紹介すると、アイヌ関係資料や郷土資料が多く、「馬産地という地域の特色を出すために『馬の本のコーナー』を設置し、馬関係(競走馬、馬車など)の資料を収集している」(日高町)など、その地域固有の資料を積極的に収集しているところもみられた。また、「採話文庫；北広島にまつわる採話をまとめ、編集し、一冊の本にして販売(1冊 300 円、10 冊まで刊行)」(北広島市)というのもあった。布の絵本(奈井江町)やゲートボール関係資料(芽室町)、闘病記コーナー(江別市)や大活字本など、地域の事情、利用者に合わせた収集が行われている。

恐らく、郷土資料コーナーはどの図書館にもあるはずであるが、特色ある資料として回答していないということは、積極的にコレクションとして収集していない可能性がある。この 20 自治体は、自分たちの図書館の特色を出そうと積極的な姿勢の図書館とみてよいと思われる。

図書館の積極性を知るために、図書館の情報をどのようにして市民に知らせているか、広報手段を聞いた。それが図 3-6 である。1 番多かったのが、全体の約 45%をしめた「各市町村の広報に載せる」である。その次が図書館だより、その他と続く。メールマガジンは帯広市のみであった。「その他」のほとんどはホームページであるが、「報道機関に情報を提供」(網走市)「教育委員会で情報誌を月 1 回発行。図書館のページ有」(訓子府町)「行政無線」(広尾町)というのもあった。「ない」と答えたのは 1 自治体のみで、その他は何らかの手段で図書館を PR していることがわかった。

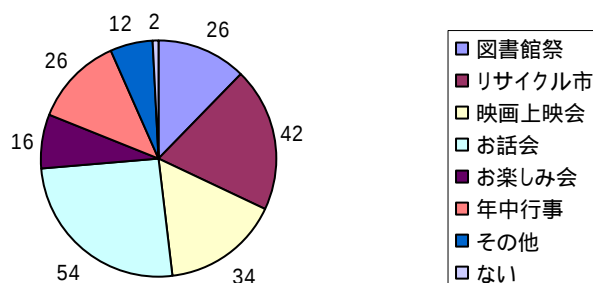
図書館をより全市民的なものにするためには、本が苦手という人にも、今まで図書館に足を運んだことがない人たちにもどんどん PR していかなければならない。図 3-7 は、市民に対する図書館の働きかけはどのようなことをしているのかを回答していただいたものである。一番多かったのは、54 自治体の「お話会」である。これには、図書館に関わる団体でいちばん多かった読み聞かせを行うグループが関わっていると思われる。そして、「リサイクル市」、「映画上映会」、「図書館祭り」、「お楽しみ会」、「年中行事」と続く。「その他」

図3-6 図書館の広報手段<複数回答可>



には、「講演会や研修」(弟子屈町・平取町)、「人形劇」(小樽市・西興部村)や、「子どもの集い」(根室市)などがあった。ユニークな取り組みとして、「洋書の絵本を原語によるお話会」(恵庭市)や、「ナイター開館の実施」(興部町)、「大人のための絵本コンサート、特別展示(テーマ展示、仕掛け絵本展示等)」(滝川市)などもあった。それぞれの図書館、地域の特性に合わせた積極的な文化活動が行われている実態が垣間見える。

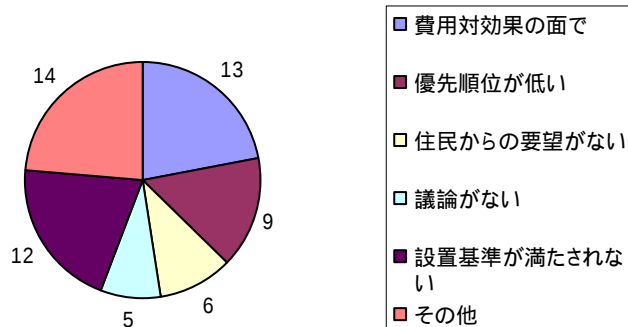
図3-7 市民に対する図書館の働きかけ
<複数回答可>



3.4 今後の図書館設置について

図書館法に基づく図書館を設置していない 50 自治体について、図書館を設置しない理由を聞いたところ図 3-8 のような結果が現れた。1 番多かった「その他」、費用対効果の面で必要ないと判断した、「設置基準を満たしていない」、「優先順位が低い」、「住民からの希望がない」、「今まで議論されたことがなかった」と続く。「その他」で多かった理由は、「公設の図書室があり十分対応している」や「人口規模に見合った図書室を整備している」、「現行の図書室で問題ない」など、今の段階を肯定的に捉えているところが多かった。なお、図書館を設置する予定があると回答した自治体が 3 あった。

図3-8 図書館を設置しない理由
<有効回答数58>



図書館に代わる施設については、49 自治体・約 8 割以上が図書室を持っていると回答した。また、その他に「学習支援センター『あそぶっく』」(ニセコ町)や「移動図書館車」(足寄町)などの回答もあった。